

お年寄りと遊ぼう



春休みの3月26日、蔵敷こども文化センターで“お年寄りと遊ぼう”会がありました。この会は地域交流事業として企画されたもので、30名以上のお年寄りが集いお手玉やベーゴマなど、昔ながらの遊びの手ほどきを子どもたちに伝え楽しんでいました。お昼は、地域のお母さん方に腕をふるっていただいた、炊きたてごはんと豚汁に加えてもう一品は、七輪の火の起こし方をお年寄りに教えていただきめざしを焼きました。参加した方の一人は「以前にもこのような会に参加した。そのとき一緒に遊んだお子さんから道で声をかけられとても嬉しかった。今日も、たくさんのお年寄りたちと遊べて嬉しかった」と嬉しそうに話されました。また、子どもたちも「お手玉が少しうまくなったよ」とか、「ベーゴマができたよ」と喜んでいた。

宮前市民館菅生分館

☎977-4781

★成人学校「住まいの工夫」5月10日
～7月19日（毎土曜）午後2～4時
全10回、受講料4千円（申込み4月
23日午前10時より分館で）

★乳幼児学級「安心と豊かさのある生活をめざして」5月7日～7月30日
（毎水曜）午前10時～12時全13
回、対象（3歳児未満の第1子とその
親20組）無料（保険料700円は自己負担）申込み（4月16日水、午前
10時から電話で）

編集委員：松本信彦、渡部信子、峯岸恵子
七浦美知子、藍郷葉子、薄井健雄、大石知
恵子、渡部美佐子、高橋好子、生駒みを

菅生こども文化センター

☎976-0444

★わかば祭 5月11日（日）
午前10時～午後2時

わかば祭は当こども文化センターがオープンした日をお祝いし、地域の子どもたちを中心に、住民と職員が一体となって実施します。22回目のわかば祭へみんな遊びにきてください。

蔵敷こども文化センター

☎977-2577

★蔵敷チャンピオンシップ（PK大会）

4月19日（土）午後2時から

★バドミントン大会

4月23日（水）午後2時から

1997年4月10日

発行：菅生中学校区

地域教育会議

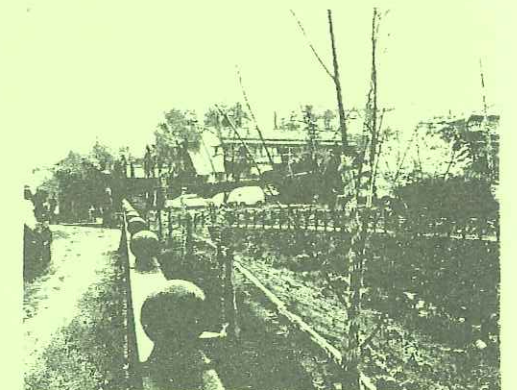
編集：広報委員会

事務局：菅生中学校

☎977-8787

どらひあんぐる菅生

平瀬川に桜の並木



蔵敷交差点の近く、平瀬川の上流に沿う土手の両側に桜並木が誕生しました。「うらおいのあるまちづくり地域問題促進委員会」（中野貢代表）の運動によるもので、奈良八重桜、駿河台句（すげたいい）、渦桜（うずくら）など珍しい品種ばかり10種類23本が植えられました。お花は4月中旬から下旬に見られるということですが、どんな花が咲くのか楽しみです。

この桜は「日本さくらの会」から贈られたもの。2月23日の日曜日、自治会や商店会の方々、小学校、中学校の先生や親や子どもたち、そして飯村区長さんや区づくりプランの方々など大勢が参加して植樹を行いました。

川を生かしたまちづくりをめざし、地道な活動を続けてきた一人、松井隆一さんは「毎年、桜の木を増やしていき、四季折々に咲くツツジなどの低木も両岸に植えていく予定。街のガーデンのモデル

になるようにしたい」と今後の展望を話しています。

植えられた桜の木にはそれぞれ、木の名前と解説の表示をするとのこと。昔のたたずまいを残すこの川沿いは、車の往来も少なく、桜をはじめとする四季の花を楽しめる並木道が完成すると、人々のオアシス場として親しまれることでしょう。少しでも多くの方々が、こうした「まちづくりの活動」を応援したり、参加していくといいですね。



菅生小学校環境教育研究発表会

地域に根ざした環境教育実践



菅生小が市教委より委嘱された環境教育、自主研究を含め3年間の成果を発表しました。当日(2/19)は、県外からの方々も入れて300名を超す参観者が訪れ、環境教育への関心の高さがうかがわれました。

7学級の公開授業は「野鳥」や「平瀬川」など、自然に恵まれた菅生の地域に根ざした環境問題を取り上げています。子どもたちは、フィールドワークなど体験学習を通して身近な問題を学んでいるため、率直に意見を交換していました。

6年生の授業「地域の環境を考える」を行った村岡先生は「自分たちで決めた

テーマを基に、手と足を使って疑問を調べたり、問題提起や討論ができ、いい授業になった」と子どもたちの自主性を喜んでいました。授業を参観した父親の奥崎さんは「娘は開発による樹木の伐採を目の当たりにし、樹木を大切にすることは紙を大切にすることであると気づき、インターネットでリサイクル情報を集めた。子どもたちの自ら勉強しようという積極性を娘を通じて感じた」と感想を述べてくれました。また、母親の渡部さんは「毎週行われるあき缶拾いに、最初はよく考えずにビニール袋をもって行った息子でしたが、自分が住んでいる地域を大切にすることから地球規模の環境を育もうとする種が心に芽生えたようで嬉しい」と話していました。



いじめシリーズ(6)

いじめはなくせるか

3月22日放映

NHK教育トゥデー「中学生日記〜卒業生からのメッセージ」より

☆メッセージのなかに、いじめを解決するヒントが・・・



どうしていじめをするのか？

- ・仲間はずれにされたくないから。
- ・自分がいじめられていたから。
- ・何回も陰口を言われたから。
- ・ストレスがたまっていた。

いじめられた子はどう思っているか？

- ・親にも先生にも恥ずかしいから言わない。
- ・いじめは殺人より罪が重い。傷は一生消えない。友だちと深い関係がつかれない。
- ・身近な大人への不信感。心の支えになってくれる人がいないときの絶望感がある。
- ・先生に相談したが、何も対策がとられなかった。くやしかった。
- ・いじめを解決しようとする先生の姿が、心の支えになった。

いじめはなくなるか？どうすればよいか？

- ・本気でいじめをなくそうとする先生が必要。
- ・いじめをやる子は親が教育すべき。
- ・好き嫌いでいじめない。お互いの長所短所を認め合って、大人のつき合いをする。
- ・社会が勉強や競争を強制するのでストレスがたまりいじめが増えた。社会も親も悪い。
- ・自分の将来に夢を持っているので、他人をいじめようなんて思わない。

学校へ行けない子のこと

学校へ行けなくなってしまったこと、忘れ去られていると思いませんか？

「学校」って勉強だけをする場ではないはず、共同生活を育む場所だけでもないはず。友だちとのふれあい、先生との関係、そういうことを体験する場なのではないでしょうか。その経験をできないということは、学校へ行けない子どもたちにとって学校は必要ないということも考えられます。

しかし、もしも学校へ行けない子どもたちを学校へ行けるようにできたならば、また学校に通えたようにも思えます。他の生徒や先生方も自分たちのことで精一杯で、他人のことを思いやる気持ちが忘れ去られているように思います。どこか間違っていないですか？

日本の教育体制は、今の子どもに合った教育を、今の先生方に合った教育体制を整えていかなければ、学校へ行けなくなってしまう子どもたちは増え続けることでしょうか。(中学生の母)

こぼれ話 子どもの変化は？

《その1》校長先生が種から育てたサクラ草を株分けして増やしているが、校長先生が水やりをしていると低学年の児童が手伝いにくる。《その2》蔵敷交差点の花壇に、以前は空き缶やお菓子の袋のポイ捨てがあ



った。ところが去年の秋頃からきれいになったという。「菅生小の子どもたちが登校時にゴミを拾っていた」と住民の方のお話。草花を大事にする心が育ったのでは！

《その3》毎朝、校庭のゴミを拾いながら校門から玄関まで歩くのに、20～30分はかかっていた。何とそれが1年前頃からゴミはほとんど落ちていないため、2～3分になった。《その4》3月の終業式のこと。児童たちはこれまでになく元気いっぱい校歌を歌った。これは心が開いているという証拠。環境教育の根本は「人間や生き物への愛情を育むこと」。子どもたちは地域のことに関心をもつようになり、地域の一員として生活することが実現しつつあるという気がする。(小岩教頭先生談)

